

10/03 Lidköping - Sweden
10/05 Essen - Germany
10/06 Pratteln - Switzerland
10/07 Torino - Italy
10/09 Rotherham - UK
10/10 London - UK
10/12 Strasbourg - France
10/13 Tilburg - The Netherlands
10/15 Würzburg - Germany
10/16 Verviers - Belgium
10/17 Paderborn - Germany

2

The Adam & Eve 2004 Experience

*The Flower Kings
10th Anniversary Tour*



デビュー10周年を迎えたTHE FLOWER KINGS。バンド、ソロ両面とどまることを知らない活発な活動を続ける彼らのヨーロッパ・ツアーを、本誌スタッフの独自取材でお送りします。

10月9日 Oakwood (Rotherham - UK)

THE FLOWER KINGSイギリス公演の1日目は、RotherhamにてClassic Rock Society (以下CRS)主催。彼らがCRSでギグをやるのは4回目だと思うのだが、今回の会場は今までのHerringthorpe Leisure Centreではなく、よりキャパの大きいOakwoodで、TFKが確実にステップアップしてきたのを感じさせる。会場到着後、本国FCスタッフやイギリスのファン仲間と旧交を温めたりしていると、CRSのMartin Hudsonが挨拶の為にステージに登場。さあ、いよいよライブである。

ちょっとミステリアスな感じのSEと共にステージにはスモークが流れ、そこにメンバーが登場して、"Compassion"が始まった。ツアー最初のスウェーデンやドイツでの公演からの情報でオープニングがこの曲だとは聞いており、その時はちょっと意外に思ったのだが、エフェクトのかかったヴォーカルにスモークとライトが何ともいえない雰囲気を加えていて、ひきこまれる。そして間髪を入れずに"Drivers Seat"。メンバーの楽しそうな表情と共に、彼らの持つポジティブなエネルギーが強力に伝わってくる。Roineの短い挨拶を挟んで"Cosmic Circus"、間をおか

ず"Babylon"。この2曲はTFKの音楽のもつ優しさや暖かみをよく表していると思うのだが、"Babylon"はそれだけでなく、Roineのギターを堪能する曲に変身していたように思う。続いてはDanielのシアトリカルなヴォーカルをフィーチャした"Vampires View"からTomasのピアノをフィーチャした小曲"Days Gone By"、そして間をおかずにTHE BEATLESの"I Am the Walrus"。観客の反応は決して大きくはなかったが、ムードを一気に変えるのには良い選曲だったと思う。この後ZoltanとJonasのファンキーなリズムをベースに、メンバー紹介を兼ねて他のメンバーがちょっとずつ演奏を加えた短いジャムがあった。最後にサウンド・エンジニアのPetrus Konigssonも紹介され、そこからすぐに"Adam & Eve"へ。ショウも終盤になり、Roineの「僕がとても気に入っている曲」というMCに続いて"Love Supreme"、そしてTomasのキーボードとJonasのウォームなベースに導かれて始まった"The Blade of Cain"で本編が終了。アンコールの"The Truth Will Set You Free"でこの日のショウは終了した。

「Adam & Eve」からの曲はどれもライブの方がより魅力的に聴こえたが、この日のショウ自体は、手堅くソツなく、若干抑え目という印象だった。これでも十分良いライブなのだが、私はもっと凄い公演を観たことがあるのだ。まだまだ翌日のロンドン公演の為に助走という感じである。(や)



10月10日 Mean Fiddler (London - UK)

昨年10月、Londonへ観光を兼ねて遊びに行った。メインイベントはもちろんTHE FLOWER KINGSのLondon公演。

前回、私がTFKを見たのはその前年、NYCのTribeca Hotelでのライブだった。そう、|BetchaWannaDanceStupid!|に収められたジャムセッション風ライブで、通常のライブとは全く様相が違ったものだった。この時はスケジュールの都合が付かず、NYに着いた初日の夜にTribeca Hotelへと向かう羽目になり、疲労とその音楽で妙なトリップ感覚を覚えながらも必死に演奏を追っていく、という非常に疲れた経緯があったので、今回のLondon滞在ではTFK公演を滞在最後の夜に合わせ、準備万端の体勢で臨んだ。

10日の公演当日を迎える前にLondonにてTFK FC Japan欧州支部局長やよいさんと合流。夕食を共にしながら、情報を集めたり、公演場所となるMean Fiddlerの場所の確認などを行う。そして公演当日。まず、ツアーマネージャーに連絡を取り、公演前に事前に約束をしていたHasse Frobergとのインタビューの準備を行う。中に入れてもらうと、まるで迷宮かダンジョンか、という感じ。ちょっと造りがややこしい。当然、Hasse Fが見つからない。ステージではサウンドチェックが行われており、Zoltan Csorszがドラムを叩いている。ステージは結構広く見え、左右上段にある2つのスクリーンがまず目に付

く。今回のツアーではサウンドエンジニアの他にライティングエンジニアも同行しているとの話を思い出す。期待が膨らむ。ツアーマネージャーがHasse Fを探しに行っている間、Jonas Reingoldに遭遇。事前にリズム隊の2人は風邪で体調が悪く、ステージでもツアー前半では調子が良くなかったと聞いていたので、体調の事を聞くと、「徐々に良くなっているよ」との言葉に胸を撫で下ろす。Jonasにマーチャンダイズテーブルに連れて行かれると、ツアーTシャツに10th Anniversaryの文字が目に入る。このツアーでのバンドの意気込みを感じ、更に期待が高まる。そこへZoltanが合流。サウンドチェックが終わったようだ。会う度にいつもヘッドフォンを付けているけど、何を聞いているんだろうな？体調の事をこちらにも聞いてみると「大丈夫、治ったよ」との事。くしゃみでもしてリズムが乱れたら格好悪いよねとかクダラナイ冗談を飛ばす。更に会場を歩き回るとTomas BodinとDaniel Gildenlowに遭遇。ツアーの出来には今のところ満足しているようだ。ここで、ツアーマネージャーがHasse Fを連れて登場。インタビューの為に別室へと向かう。インタビューが終わると一旦会場を後にし、パブでやよいさん他、いつも日本版プランテーションに良質な音源を回しているGaryとPhilipと合流。談笑をしながら開演時間を待つ。

開演時間近くになり再びMean Fiddlerへと向かう。ステージ前には既に観客が詰めて



いた。ここでやよいさんは写真を撮る為ベストポジションへと向かう。隣り合わせにいたファンと話す。|Daniel Gildenlowを見たかったんだ。PAIN OF SALVATIONはあまりライブを演らないからね」と言っていた。確かに周囲を見渡すとPOSのシャツを着た者や|Daniel-!|と野太い声も聞こえる。新譜|Adam & Eve|ではDanielがリードボーカルを取る曲なども増え、POSファン、Danielファンが結構集まっている事に気付く。彼の加入はそういった意味ではTFKにとってもより幅広いオーディエンスにアピールしたという恩恵をもたらしているのだろう。女性客もちらほらと見るが、男性ファンに連れられて…といった感じ。

そうこうしている内にスモークが焚かれ始め、メンバーがぞろぞろと向かってステージ左袖から登場。オーディエンスから拍手や歓声があがる。後方中央のドラムキットにZoltanが納まり、ドラム右側のキーボードにTomas、左側にJonas。前列には左からHasse F、Roine Stolt、そしてパーカッションやキーボード郡に囲まれたDanielが更に肩からギターを下げて並ぶ。マルチインストルメンタリストと言ったところだろうか。このスモークがLondon公演では結構くせ者で、時に焚きすぎで、ステージ後方に位置するTomasなどが見づらかったのは残念だった。

SEに合わせて、幻想的なサウンドスケープが奏でられるとエフェクトをかけたRoineの

ボーカルが入る。"Compassion"だ。Roineのギタープレイをふんだんに取り入れたオープニングにオーディエンスの目が釘付けになるのが判る。立続けに"Drivers Seat"へと雪崩れ込む。個人的にはこの曲が|A&E|の中では一番ライブで映えるだろうなと思っていたので、早い段階で勝負に来たな、と感じた次第。また、現在のTFKの姿を一番的確に捉えた曲だと思う。Roineのギター、Tomasのキーボードサウンドを中心に展開されるインストパート。絡み合うリズム。Hasse F、Daniel、Roineによるボーカル回しに様々な組合せによるボーカルハーモニー。それぞれ既にキャラクターが確立されたボーカルであるが、ハモってもお互いを決して邪魔しない。良い組合せだと思う。流石サウンドエンジニアを連れてきているだけあって、ステージ上の音が明確に聞こえる。ライティングも曲に合わせて色や方向を変え、変化を付けている。ステージ左右上段に設置されたスクリーンからは様々なスナップショットや映像が代わる代わる映し出されて行く。景色や動物、コンピューターグラフィックス、バレエダンサーの踊り、宗教的な映像(寺院や絵画、壁画等)が映し出されて行く。無造作に挿入されているようであり、何かしら意図があるようにも見受けられるが、それは見た者次第、という事なんだろう。

曲が終わるとRoineの挨拶が始まり、トラディショナルなダンスチューンのようなオープニングにHasse Fのボーカルが被さ

